# アラウンド・ザ・ワールド Part 2

## Around the World

第116回

# 医学の進歩と保険商品

アラウンド・ザ・ワールドPart2の116回目は、近年の医学の進歩がもたらした多様な新商品を取り上げる。保険会社が成功する新商品を開発するには？

（RGA再保険会社提供）

保険会社にとって、医学における技術革新は新たな可能性を生み出し、消費者を重視した保険商品の開発の方向性を示すことがある。本稿では、医学の進歩がどのように生命保険商品のイノベーションにつながり、被保険者にメリットを提供しながら、ビジネスの成長を支えるのか、その仕組みについて考察する。

アケスビ氏

中嶋氏

## ゲノミクス

保険会社は、給付金または保険契約者への付加価値サービスとして遺伝子検査を取り入れ始めている。例えば、南アフリカの生保会社は、がんのみを対象にした特定疾病保険を提供している。被保険者が治療の専門家による遺伝子検査を行う場合、特定の遺伝子を詳細に調べる遺伝子検査や標的治療計画に対して保障金額の10％を支払う仕組みだ。

もう一つの事例は、遺伝子情報を活用し標的医療のツールを開発する米国のヘルスケア企業だ。この企業は、米国の生保会社と提携し、遺伝子的なリスク評価を提供している。35歳から70歳までの契約者に唾液検査を実施し、8疾患に対する隠されたリスクを特定するサービスだ。保険契約者は検査報告書を受け取り、疾患の発症リスクを低減するために医師と相談することが可能となっている。個別の検査結果は保険会社と共有化されることはなく、また、既存の保険契約の保険料への影響はない。一方で、保険会社は匿名化された概要のデータを受け取ることで、被保険者集団全体の健康や行動に関する傾向に関する理解を深めることができる。

## 商品イノベーションを牽引する技術革新

### 液体生検

米国のヘルスケア企業は、複数の生保会社と連携し、MCED（複数がん早期発見）検査を提供している。この検査では、50種類以上のがんのシグナルを検出し、がんの発生組織や部位を特定することができる。保険契約者はがんを早期のうちに発見し、適切な治療を受けることで予後の改善が期待される。この場合も、保険会社は個人を特定できない形で集計されたデータを受け取る。

### がんの治療

香港の保険会社は、がんの実損填補型保険の販売を開始した。香港国内または海外で承認前の試験薬を最大150万香港ドルまで提供する香港市場初の保障だ。末期がんの患者に対する治療オプションとしても役立つ給付で、試験薬給付金の支払要件として、がんのステージⅢまたはⅣや末期血液がんの診断が必要となる。

### 肥満治療薬

体重管理に取り組むため、GLP―1受容体作動薬による肥満治療を保障対象に取り込んでいる保険会社が世界的に増加している。米国の保険会社は、ライフスタイルに対するカウンセリング、栄養管理士による食事・栄養に関するパーソナルプラン、体重の変化を測定するデバイス等、さまざまな付帯サービスを提供している。

韓国では、国民健康保険では保障されないGLP―1受容体作動薬をカバーする特約付き災害死亡保険商品が販売されている。給付金を受け取るには、BMIが30以上、代謝異常疾患歴（高血圧、糖尿病、脂質異常症等）の少なくとも一つに診断されたことがあり、総合病院でGLP―1受容体作動薬を処方されたことが要件となる。

### 認知症の診断

日本の製薬会社は、保険会社と連携し、放射線トレースを用いる診断ツールであるアミロイドPET画像検査の費用を保障する認知症ケア保険を提供し、認知症の早期発見・治療を促進している。一方、韓国の保険会社は、早期認知症を保障する介護保険を発売した。軽度認知障害と診断された患者を支援するサービスを提供し、認知症の進行を管理する予防プログラムや治療サービスを2年間提供する。

### 遠隔モニタリング

カナダの保険会社は、ヘルステクノロジー企業と協力し、特定疾病保険の保険金請求者に遠隔モニタリングの保障を提供している。健康に関するICTパッケージによって重要なバイタルの測定ができ、ヘルスケアの専門家と、サーベイやテキストメッセージ、テレビ会議によって双方向的に相談をすることができる。このサービスは6カ月間まで無料、それ以降は有料で継続できる。

別のカナダの生保会社は、米国に本拠地を置くデジタルヘルス企業と協力し、社員や保険契約者に対する健康状態のモニタリングを向上させた。スマート血圧モニターやワイヤレススケール、心電図のウエアラブル等、健康増進商品へのアクセスを提供している。こうした商品は、ユーザーの健康関連の測定、および長期的な健康状態のモニタリングと自動的にシンクロするモバイルアプリとも接続可能だ。また、ユーザーは、患者・医師間のポータルを用いて各自が権限を付与した医師へ直接データを送ることが可能だ。それによりデータが解析され、医師は患者を遠隔モニタリングすることができる。

### AIによる健康状態に対するリスクアセスメントのツール

保険会社は、AIをベースにしたアセスメントツールを用いて、がんの早期発見の向上や健康要因の評価を行っている。オランダのAIによる皮膚がん検出テクノロジーに特化したデジタルヘルス企業は、ヨーロッパ各国の保険会社に協力し、早期診断を目的としたモバイルアプリを提供している。この企業の臨床的に検証されたAIアルゴリズムを活用し、ほくろや皮膚の斑点をアプリにより解析し、皮膚がんのリスクを評価することにより、一般的な皮膚がんの兆候を検出することができる。同企業のデータによると、最大で95％の感受性を検出できる。

南アフリカでは、保険会社はrPPG（遠隔光電式容積脈波記録法）技術を採用し、スマートフォンのカメラで非接触型の健康状態のモニタリングを可能にしている。保険会社は、被保険者の顔の表情をスクリーニングし、医療支援への加入状況や日常的な運動等、少数の質問に答えることで、スマートフォンで年次で健康評価を実施できるようにしている。この技術により、血圧、心拍数、ストレスレベル、血中酸素飽和度などの健康に関するリスクファクターを調査し、保険料の算定に活用する。検診結果に基づき、保険契約者は月額保険料の最大35％の割引を得ることが可能だ。

### まとめ

上記は医学の進歩から派生し、人々の生活や保険の将来に影響を与える商品開発例の一例だ。死亡率や罹患率の改善が期待される中、医学の進歩を商品開発に的確に活用する保険会社は、競争優位を確立していくだろう。

◇

【アケスビ氏のプロフィル】マギル大学卒業。ウォートン・ビジネススクールのエグゼクティブ・プログラム修了。コンサルティング会社をはじめとして、事業戦略、オペレーション、リスク管理、データ分析等、金融サービス業界の多様な分野で豊かな経験を有する。2020年RGA入社。現在は商品開発に重点を置き、各国支店と協力してグローバルにお客さまをサポートしている。

執筆者
RGA インターナショナル・コーポレーション
グローバル・プロダクト・イニシアティブ
ヴァイス・プレジデント
オスマン・アケスビ

RGA インターナショナル・コーポレーション
グローバル・プロダクト・イニシアティブ
マネージャー
ハムザ・シャイバン

日本語訳
RGAリインシュアランスカンパニー日本支店　通訳
山本あゆみ

日本語監修
RGAリインシュアランスカンパニー日本支店
エグゼクティブ・ディレクター
ヘッド・オブ・プロダクト&ビジネス・ディベロップメント
中嶋　清崇